

日本史教員からみた「歴史総合」

田 中 元 暁

はじめに

2022年4月、日本史と世界史を併せた「歴史総合」が始まった。これまでにない新科目であり、試行錯誤の連続である。本稿は、2021年10月17日に日本教育会館で行われた「第16回シンポジウム歴史教科書——いままでとこれから」（主催は歴史学研究会、歴史科学協議会、東京歴史科学研究会、日本史研究会、地方史研究協議会、歴史教育者協議会、東京都歴史教育者協議会、子どもと教科書全国ネット21）における報告の一部を再構成したものである。本稿の目的は、中高のつながりを意識しながら、高校教員の視点で、「歴史総合」の教科書記述の比較検討を行うことにある。「歴史総合」の教科書は世界史Aを中心とした記述に日本史Aを組み入れた内容になっており、さらに「主題」や「問い」を中心としたコラムや史資料を組み入れている。分量は多くなっており、何かしら削らざるを得ない。各教科書で何が削られているのかを分析することで、教科書の特徴を明らかにすることができると思う。筆者の専門の関係で、「近代化と私たち」の日本史部分に限定して教科書記述を分析し、1章で明治維新の始点、2章で民衆暴力、3章で沖縄を取り上げる。また、4章では、日本史と世界史とを併せた検討（絵画・写真の分析）を試みたい。

なお、本稿では、701 東京書籍『新選歴史総合』、702 東京書籍『詳解歴史総合』、703 実教出版『詳述歴史総合』、704 実教出版『歴史総合』、705 清水書院『私たちの歴史総合』、706 帝国書院『明解歴史総合』、707 山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』、708 山川出版社『現代の歴史総合 みる・読みとく・考える』、709 山川出版社『わたしたちの歴史 日本から世界へ』、710 第一学習社『高等学校歴史総合』、711 第一学習社『高等学校 新歴史総合 過去との対話、つなぐ未来』、712 明成社『私たちの歴史総合』の12冊の教科書（2021年の見本）を検討対象にする。紙幅の関係で、教科書は先頭の番号で表記する。

1 明治維新の始点

明治維新はいつ始まったのであろうか。『世界大百科事典』の「明治維新」という項目の冒頭は、「19世紀後半、国内矛盾と世界資本主義の圧力とが結びつくなかで、幕藩体制が崩壊し、近代天皇制国家が創出され、日本資本主義形成の起点となった政治的、経済的、社会的、文化的な一大変革を総称している」¹と記述している。これは明治維新を研究している田中彰氏が書いたものであり、明治維新を短い文で端的に表現している。この中の「世界資本主義の圧力」という部分に関しては、嘉永6（1853）年にペリーが来航して以降の外交を指しており、全ての教科書が記述している。一方、「国内矛盾」に関しては、幕藩体制の経済的・社会的基盤である石高制が行き詰まったことを指している。1835・36年は天候不順による不作で天保の飢饉が起り、1836年の甲州では百姓一揆の作法を無視する騒動が発生した²。つまり、天保期はこれまでの仁政がゆらぎ、民衆救済をおこなわない幕藩領主の無力さが露呈される画

期になっている。また、幕末になると、貧農や小作人、日雇い層が中心となり、世直し一揆を起こした³。須田努氏が指摘しているように、「幕末の民衆や社会を叙述するには世直し騒動に触れざるを得ない」⁴のである。では、教科書は「国内矛盾」をどれくらい記述しているのか、表1にまとめてみた。

表1 教科書叙述の有無（国内矛盾）

| | 701 | 702 | 703 | 704 | 705 | 706 | 707 | 708 | 709 | 710 | 711 | 712 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 天保の飢饉 | 本文 | | 本文 | 本文 | | | 本文 | 本文 | | | | |
| 世直し | | | | | | | | | 本文 | | | |

本文に記述がある場合は、表中で「本文」と表記した。「国内矛盾」と「世界資本主義の圧力」の関連こそ重要であるが、この表から「国内矛盾」を記述する教科書がとても少ないことが判る。「国内矛盾」に触れずに、国際関係のみで明治維新を教えることができるのであろうか。この中で、内憂外患⁵を意識して記述しているのは、703 実教であり、「天保の飢饉による社会不安や外国船の接近に直面するなか、老中の水野忠邦は幕政の刷新を試みた（天保の改革）」（74 頁）と記述している。

中学の社会（歴史分野）の教科書（8社）で、「国内矛盾」を記述しているかどうか調べてみた。天保の飢饉に関しては8社全てが本文に記述している。また、世直しに関しては7社が本文に記述をしている⁶。このように、「国内矛盾」は中学で必ず触れる項目である。中学からの連続性を考えると、「歴史総合」に「国内矛盾」がないことに戸惑う生徒もいるであろう。

2 民衆暴力

近年、芸能人による暴行事件、幼児虐待事件、家庭内暴力や学校内暴力など、暴力にまつわる事件が連日のように報道されている。これは日本だけのことではなく、世界でも連日のように暴力に関する事件が起きている。アメリカでの銃乱射事件や警官による黒人男性殺害事件、「イスラム国」、タリバンによるアフガニスタン支配など、数え上げればきりが無い。また、直接的な暴力だけではなく、インターネットを介した誹謗中傷など、現代社会の暴力は多岐にわたっている。暴力にも歴史があり、それを学ぶことで暴力に溢れた現代社会を生きていく上で、私たちに何らかの指針を与えてくれると考える⁷。近代の民衆暴力について、藤野裕子氏は次のように記している。

日本近代史で起きた四つの事件〔①新政反対一揆、②秩父事件、③日比谷焼き打ち事件、④関東大震災時の朝鮮人虐殺——筆者注、以下同じ〕を取り上げる。いずれも民衆暴力と国家の暴力との関係や、権力への暴力と被差別者への暴力との関係が明瞭に現れた事件である。……いずれの事件もそれぞれの時代の特徴を色濃く反映しており、近代化・民主化・対外戦争・植民地支配といった近代日本を理解するうえで欠かせない要素を含んでいる⁸。

これは、「歴史総合」の「近代化と私たち」を考えるうえで大切な視点である。教科書は、この4つの事件をどのように記述しているのだろうか。③日比谷焼き打ち事件に関しては、全ての教科書で記述している。①新政反対一揆、②秩父事件、④関東大震災時の朝鮮人虐殺を教科書がどれくらい記述しているのか、表2にまとめてみた。

表2 教科書叙述の有無（民衆暴力）

| | 701 | 702 | 703 | 704 | 705 | 706 | 707 | 708 | 709 | 710 | 711 | 712 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ①新政反対一揆 | | | 本文 | 本文 | 史料 | | 本文 | | 本文 | 特集 | | |
| ②秩父事件 | | | | コラム | | | | | | | | |
| ④朝鮮人虐殺 | 本文 | 本文 | コラム | | | 特集 | | 本文 | | コラム | コラム | |

ここでは、1頁以上を使って取り上げている場合は「特集」、1頁内の上下左右のどこかにまとめてある場合は「コラム」と表記した。「歴史総合」は、政治史や国際関係に力を入れており、①新政反対一揆（1871～1877年頃）や②秩父事件（1884年）を記述する教科書が少ないことが判る。世界にはフランス革命（1789年）、三・一独立運動（1919年）、五・四運動（1919年）などのできごとがあり、民衆や民衆暴力に関して日本史と世界史の比較検討があってもよいと考える。なお、中学の社会（歴史分野）の教科書では、①新政反対一揆は8社全てが本文に記述、②秩父事件は2社が本文、4社がコラム・脚注・地図に記述、④関東大震災時の朝鮮人虐殺は2社が本文、5社がコラムに記述している。中学では学習することが多い内容である。

まず、①新政反対一揆について詳しくみていきたい。明治初期には、新政を受け入れる人びとや反対する人びとなど、多様な考えを持つ人びとが存在し、一枚岩ではなかった。これは現代社会でも同様で、多様な考えを持つ人びとが複雑に絡み合っている。しかし、教科書は分かりやすさを重視するために単純化を行っており、新政に反対する人びとを記述しないのであろう。706 帝国では、「中央集権化がこれほど短期間で徹底して行われたことは世界的にも珍しかった」（72頁）と記述している。706 帝国は新政反対一揆を記述していないため、国民国家形成過程のプラス面が強調されすぎているような印象を受ける。「歴史総合」は生徒全員が履修する科目であり、理系に進む生徒はこれが最後の歴史系科目になる可能性もある。その際、成功（プラス）の側面だけを教えて、失敗（マイナス）の側面を教えないことがあってよいのであろうか。現代の複雑な問題を考えるうえで、新政反対一揆という民衆暴力を教えることは有効であると考えられる。

次に、④関東大震災時の朝鮮人虐殺を詳しくみていきたい⁹。藤野氏は、「裁判でも公権力による〔朝鮮人〕殺害は不問に付された。朝鮮人を殺害した罪で被告になったのは自警団などの民間人だけで、軍隊や警察が犯した殺人については起訴されることはなかった」¹⁰と指摘している。一つ目に、誰が朝鮮人を虐殺したのかという殺害主体に注目したい。「歴史総合」では、703 実教「住民たちが結成した自警団」（147頁）、704 実教「軍隊・警察や住民が組織した自警団」（113頁）、706 帝国「軍隊や警察、各地で組織された自警団」（105頁）、707 山川「住民が結成した自警団」（130頁）、708 山川「住民が組織した自警団」（110頁）、710 第一「住民は自警団」「軍隊・警察によって殺害」（134頁）、711 第一「軍隊や警察、自警団」（121頁）と記述している（下線はすべて筆者による）。まとめると、軍隊・警察・自警団が4社、自警団が3社、主体不明記が2社であり、約33%の教科書が軍隊・警察を明記している。一方、中学の社会（歴史分野）の教科書では、軍隊・警察・自警団が4社、自警団が2社、主体不明記が1社であり、約50%の教科書が軍隊・警察を明記している。国家（軍隊・警察）が殺人を犯したことを記述する割合は「歴史総合」の方が低くなっており、ここでも「歴史総合」は負の側面を避けるという傾向を読み取ることができる。二つ目に、三・一独立運動（1919年）と関東大震災時（1923年）の朝鮮人虐殺との関連性について注目したい。これまでの研究では、三・一独立運動を契機に日本国内での朝鮮人に関する報道が変わったと指摘されている。三・一独立運動をきっかけに、反抗的な行動を表す「不逞」という語が「鮮人」の語と結びつき、「不逞鮮人」という言葉が普及した¹¹。「不平をいだいて無法

なふるまいをすること」・「命令に従わないこと」¹²が朝鮮人と結びつけられたのである。このように、三一独立運動と関東大震災時の朝鮮人虐殺とは関連性が深い、この2つのできごとを同じページに記述する教科書は一冊も存在しない。これでは、高校生がこの2つのできごとを関連付けるのは困難であり、朝鮮人虐殺の背景を理解することはできないであろう。三つ目に、関東大震災（1923年）では朝鮮人虐殺が起きたが、阪神・淡路大震災（1995年）では朝鮮人虐殺が起らなかった。72年間でどのような変化が起き、なぜ虐殺が起らなかったのかを考えることも重要である。このような、災害時における虐殺に関する比較検討があってもよいのではないだろうか。

3 沖縄

沖縄は、2019年の高校の「都道府県別旅行先上位20」で第1位（250件、11.5%）¹³を獲得しており、修学旅行で訪れる高校も多いであろう。ここでは、教科書が沖縄をどのように記述しているのかに着目したい。加藤徹氏は、2006・2007年検定の日本史A・Bの教科書と副読本（新城俊昭『高等学校琉球・沖縄史』）との比較検討を行い、「明治期における沖縄に関する記述は大別すると四つの項目、①江戸時代・②琉球処分（琉球藩設置、台湾出兵、琉球処分）・③日清戦争・④その他に分類できる」¹⁴と記述している。この分類を用い、「歴史総合」の教科書が、①江戸時代、②琉球処分、③日清戦争をどれくらい記述しているのか、表3にまとめてみた。

表3 教科書叙述の有無（沖縄）

| | 701 | 702 | 703 | 704 | 705 | 706 | 707 | 708 | 709 | 710 | 711 | 712 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| ①江戸時代 | 特集 | 特集 | 特集 | 特集 | 特集 | 本文 | 本文 | 本文 | 特集 | 特集 | 特集 | |
| ②琉球処分 | 本文 | 本文 | 本文 | 本文 | | | | | 本文 | 本文 | 本文 | |
| ③日清戦争 | | | | | | | | | | | | |

この表から、①江戸時代に関しては特集を組んでいる教科書が多く、②琉球処分に関しては本文に記述している教科書が多く、③日清戦争に関しては記述している教科書が少ないことが読み取れる。なお、中学の社会（歴史分野）の教科書では、①江戸時代は8社全てが本文に記述、②琉球処分も8社全てが本文に記述、③日清戦争は3社が本文に記述している。「歴史総合」も中学の教科書も同じ傾向であり、③日清戦争を記述している教科書が少ないことが判る。2006・2007年検定の教科書を分析した加藤氏は、「[日清戦争は] 朝鮮をめぐる日清の動きを重点的に記述しているものの、沖縄が描かれることはほとんどない」¹⁵と述べており、2006・2007年検定の時代から③日清戦争を記述している教科書が少ないことが判る。しかし、日清戦争は沖縄にとっての画期である。大谷正氏は次のように述べている。

日清戦争が始まると、黒党あるいは頑固党と呼ばれるこうした〔＝琉球処分に抵抗した〕人びとは、……旧国王尚泰の健康と清の戦勝を祈願した。……日清戦争段階では、旧慣温存政策が続いていたことと、琉球藩復活をめざす政治的・文化的勢力が根強く存在していたことから、沖縄の日本への統合は十分進んでいなかった。しかし、日清戦争による清の敗北によって日清戦争後は沖縄の日本化が進んでいく。……日露戦争に2000名以上の沖縄出身兵が出征し、約1割に達する205名が戦死して、「忠良な帝国臣民」であることを証明した¹⁶。

沖縄では日清戦争以前に多様な考えを持つ人びとが存在したが、国民国家に強制的に統合されていき、日露戦争では多様性が消失した。国民国家は外部と内部を区別し、外部に対して内部を一致団結させる。それにしたがないものには暴力的な制裁が加えられる。このように考えるならば、日清戦争は沖縄に

とっての画期であり、もっと注目すべきである。なお、日清戦争以前に多様な考えを持つ人びとが沖縄に存在したことを記述している「歴史総合」の教科書は、704 実教「清にたより琉球王国を復活しようとする琉球の人々もいたが、最終的には日清戦争後の下関条約で日本への帰属が確定した」(67 頁)と708 山川「琉球士族の抵抗や清との意見の相違は日清戦争まで続いた」(64 頁)のみである。これ以外の教科書は分かりやすさを重視するために単純化を行っており、沖縄の多様な考えを持つ人びとを記述していない。

4 日本史と世界史とを併せた検討(絵画・写真の分析)

ここまでは日本史の比較検討を行ってきた。しかし、「歴史総合」は日本史と世界史を併せた科目である。ここでは、文章でなく絵画・写真に注目し、日本史と世界史を併せた検討を行いたい。絵画・写真に関しては、「近代化と私たち」部分の人物(男性)に限定し、ヒゲの有無で分類を行った。個人が特定できても不鮮明でヒゲがあるかどうか判別できないものは除き、集合写真は人物が少なく個人が特定できる場合には取り上げた。歴史上の人物の顔は、生徒がもっとも興味を持つ部分でもある。また、ヒゲに注目する理由は、生徒にとってヒゲが身近なものであるからである。2018年の「石川県高等学校野球大会遵守事項」には、「茶髪、眉剃り、ひげ、もみあげ…等の校則違反の禁止を徹底して下さい」¹⁷と書かれている。高校球児はヒゲを剃らなければならないのである。また、校則でヒゲを禁止している学校も多いと思われる。ヒゲに関して日本史分野では、阿部恒久氏が「日本人のヒゲ、日本で流行のヒゲは、当事者が意識するとしないとにかかわらず、欧米でのヒゲのあり方に強く影響されていることがわかる」¹⁸と述べている。また、東京書籍『世界史B』(2016年検定)の教科書には図1が載っており、ロシアでも西欧の影響を受けてヒゲを切っていることが判る。表4は歴史総合の教科書を分析した結果である。



図1 ひげを切られるロシアの貴族

表4 教科書の人物画・人物写真の分析(ヒゲの有無)

| 701 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 3 | 10 | 13 |
| ヒゲ無し | 0 | 5 | 5 |

| 702 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 3 | 10 | 13 |
| ヒゲ無し | 0 | 2 | 2 |

| 703 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 8 | 14 | 22 |
| ヒゲ無し | 6 | 4 | 10 |

| 704 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 5 | 16 | 21 |
| ヒゲ無し | 7 | 2 | 9 |

| 705 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 3 | 2 | 5 |
| ヒゲ無し | 2 | 4 | 6 |

| 706 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 4 | 11 | 15 |
| ヒゲ無し | 5 | 9 | 14 |

| 707 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 0 | 8 | 8 |
| ヒゲ無し | 0 | 0 | 0 |

| 708 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 3 | 7 | 10 |
| ヒゲ無し | 2 | 1 | 3 |

| 709 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 2 | 2 | 4 |
| ヒゲ無し | 0 | 2 | 2 |

| 710 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 4 | 25 | 29 |
| ヒゲ無し | 7 | 11 | 18 |

| 711 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 6 | 23 | 29 |
| ヒゲ無し | 11 | 8 | 19 |

| 712 | 日本史 | 世界史 | 合計 |
|------|-----|-----|----|
| ヒゲ有り | 10 | 10 | 20 |
| ヒゲ無し | 4 | 1 | 5 |

近代化部分であるため、ヒゲ無しよりもヒゲ有りの方が多くなっていることが判る。この中で掲載数が多いものは、リンカン（10社、うち7社はAの絵画）、セシル・ローズ（9社、9社すべてがBの絵画）、伊藤博文（9社、うち岩倉使節団が3社、留学時が3社、旧千円札が2社、朝鮮総督時が1社）、マルクス（7社、7社すべてがCの写真）の4人である。全員がヒゲ有りである。



A



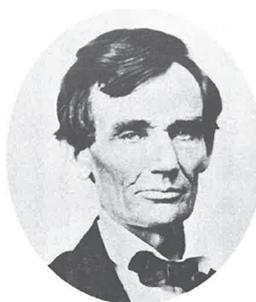
B



C

図2 教科書に掲載数の多いヒゲ有り絵画・写真

この中のリンカンに注目したい。リンカンは10社ともヒゲ有りの絵画・写真を掲載しているが、1860年のリンカンの写真にはヒゲがなかった。リンカンの顔写真を時代とともに並べると、次のようになる。



1860年8月13日



1861年1月13日



1863年



1865年

図3 リンカンの顔写真の変遷

では、なぜリンカンが1860年のヒゲ無しから1861年のヒゲ有りに変わったのであろうか。リンカンは、1860年10月15日にグレイス・ベデールという11歳の少女から、「リンカンさんの顔はほっそりしているの、ほおひげをはやせばもっとずっとりっぱに見えると思うのです。女の人みんなほおひげが大好きなんですよ」¹⁹という手紙を受け取った。これが、彼がヒゲを生やした理由であるといわれている。これに対してリンカンは、1860年10月19日に「ほおひげについては、そうですね、これまで一度もひげをはやしたことがありませんからね。グレイスちゃんはどう思いますか。いまさらひげをはやせば、わざとらしくて、きざだと思われないでしょうかね」²⁰とグレイスに手紙を返した。欧米社会において、ヒゲ無しからヒゲ有りの変化が選挙権のない少女の影響を受けているという点は面白い。

ヒゲは時代とともに持つ意味が変化していくが、近代化においては威厳や権力性を表現していた。グレイスが述べている「もっとずっとりっぱに見える」という部分も威厳である。非欧米社会においては、欧米人と対等になりたいという願望がヒゲに表れた。日本では江戸時代のヒゲ無しから明治時代のヒゲ有りに変化し、東欧（ロシア）では、長いあごヒゲを西欧風に切ることから、どちらの国でも欧米人と対等になりたいという願望を読み取ることができる。このように、ヒゲを通して日本と世界のつながりを描くこともできる。さらなる日本史部分と世界史部分の統合は今後の課題である。

おわりに

生徒は、中学の社会（歴史分野）→「歴史総合」→「日本史探究」・「世界史探究」という順番で学習をしていく。中学の社会（歴史分野）と探求科目はどちらも通史型であるならば、この二つはスムーズに連続するだろう。一方、本稿で指摘したように、中学の社会（歴史分野）と「歴史総合」の違いは大きく、生徒には負担になるように感じる。スムーズな学習を考えるならば、「日本史探究」・「世界史探究」→「歴史総合」の方がよいのではないかということを感じた²¹。

「歴史総合」は、政治史や国際関係を重視しているため、次の大きな3つの問題点があると考えられる。1つ目は上からの歴史であり、民衆が描かれにくいという点である。この点について、趙景達氏はグローバル・ヒストリーを批判する中で、次のように述べている。

川島真・服部龍二編『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）は、詳細な本格的通史として注目される。そこでは、徹底して一国史的な叙述が排され、国際的契機が重視される。……しかし、一読してみて大きな疑問を持った。国際関係がある種のゲームであるかのように書かれているのではないかという錯覚に陥ってしまったのである。もちろん、そこに集められた論考はしっかりとした実証研究に支えられているのだが、何か欠落しているという印象をぬぐいきれなかった。端的に言ってそれは、民衆が描かれていないという点に尽きる。東アジアの国際関係は、諸列強への対抗を基軸としながらも、各国の政策史とその衝突、新たな条約の締結や新たな秩序の構想、そしてその破綻と戦争、などの連続として描かれているのである。……見ての通り、民族運動や民衆運動に関わる項目が見えない。もちろん叙述の中には、そうした「事件」が若干は論じられているが、あくまでも政策史が中心的な主題となっている。……歴史の視座が、あくまでも「上から」の眼差しになってはいないであらうか²²。

これは、「歴史総合」にも当てはまる批判である。中学では『ともに学ぶ人間の歴史』（学び舎）という教科書があり、そこでは人びとを重視している。学び舎版教科書で学んだ生徒は「歴史総合」の教科書を読んで何を考えるだろうか。そもそも、「歴史総合」の大項目にある「私たち」は何を意味するのであろうか。「私たち」を民衆と捉えることもできるが、本稿で明らかにしたように「歴史総合」では民衆がほとんど出てこない。「歴史総合」でも民衆に着目し、世界の民衆の比較があってもよいのではな

いだろうか。

2つ目は、国際関係を重視するあまり、帝国主義が内包する植民地支配の負の側面が見えなくなってしまっている点である。この点について、近江吉明氏はグローバル・ヒストリーを批判する中で、次のように述べている。

グローバリズムはナショナルな枠組みを食い物にして格差を強要し、狭隘なナショナリズムを生み出す体質を本質的に兼ね備えた妖怪であることがはっきりしてきている。「グローバル・ヒストリー論」が国民国家の相対的位置づけをおこなうことが課題であるとするかぎりにおいて、グローバリズムとの同一戦略上を邁進する運命にある。したがって、たとえば彼らの認識においては東アジア地域の「ダイナミックな経済復興」には最大の価値が付与されるが、「植民地責任論」の世界史認識には拒否の姿勢が示されることになる。このことからわかるように、彼らの世界史論には植民地支配や帝国主義支配といったグローバルな認識が消滅してしまっている²³。

本稿で明らかにしたように、「歴史総合」も負の側面には極力触れず、複雑な状況を分かりやすくするために単純化している。このような歴史叙述で、生徒は複雑な現代の問題に対応できる力を養えるのであろうか。

3つ目は、歴史と自己が離れてしまう危険性である。この点について、小川幸司氏は「歴史像が大きくなればなるほどに、読み手の側は歴史家が提示する歴史像を受け身で消費するだけになり、その結果、歴史と自己が離れてしまう逆説がおこるのではないのでしょうか」²⁴と述べている。歴史が生徒にとって身近でなくなってしまうえば、歴史に対する楽しさを感じることもできなくなってしまうだろう。

この大きな3つの問題点に対処していくためには、教科書を教えるのではなく、教科書で教えることが大切になってくる。つまり、授業をする教員が教科書に加えたり、強弱をつけていくなど、教員の力量が問われているのである。「どのような生徒を育てたいのか」と筆者が問われれば、考える民衆を育てたい、「巷にあふれている粗悪な歴史像と良質な歴史像を理性的に弁別することのできる「賢い消費者」を育て」²⁵たいと答えるであろう。それを実現するためには、「歴史総合」では重視されていない民衆の日常を授業で付け加えたいと考えている。木村礎氏は、日常について次のように述べている。

歴史の研究や叙述は通例、過去の大きな事柄や事件さらには時代の変化を対象としてきた。そのような研究や叙述は今後も続くであろうし、それがいけないというわけでもない。確かにわれわれの心の中には歴史に対して特別な事柄や事件そして変化を知りたいという欲求があり、それは否定できないことである。しかしながらわれわれは、苦しみや悩みそしてさまざまなトラブルをも含み込んだ平々凡々たる日常性の中に生きており、そのことは過去における無数の無名な人々もまた同様だった。こうした無数の無名の人々の日常性を歴史の研究や叙述が無視してよいのか、ということがある。それは人間の学としての歴史学にとって許されないことであろう²⁶。

ここでは一例として、タイムスクープハンター²⁷を授業に取り入れれば、生徒は民衆の日常に退屈観を感じず、歴史を身近に感じて興味を持つようになるのではないだろうか。タイムスクープハンターの時代考証を担当していた清水克行氏は、次のように述べている。

〔「タイムスクープハンター」・「JIN 一仁一」・「テルマエ・ロマエ」などは〕見ている側の人たちは、有名な教科書に出てくる人たちが大暴れする話ではなくて、普通の人たちがどういう生活をし、そして今の私たちの価値観とどう違うのかというような疑問をもって、こういったものに注目しているのではないかと思います。やはり社会史研究でも一昔前の「大文字の歴史」から「小文字の歴史」へ、ということがいわれました。大上段に振りかぶったメインストリームの歴史ではなくて、些細な歴史、それが歴史のメインストリームにはならなかったかもしれないけれども、そこに私たちに

とってすごく大事なものがあつたのではないか、という観点に基づいた歴史のとらえ方です²⁸。

生徒は普通の人びとの昔と今の価値観の違いに興味を持つのではないだろうか。「歴史総合」は「大文字の歴史」でよいのかという疑問を強くし、「小文字の歴史」の世界史的な比較を行っていくべきではないかという思いを強くした。「歴史総合」は始まったばかりである。教員間でアイデアを出し合い、試行錯誤を重ねていくことが大切である。

付記：シンポジウム当日は、数多くの方から貴重なご意見を賜った。記して謝意に代えたい。

- 1 『世界大百科事典』改定新版 平凡社 2007年の「明治維新」の項目。
- 2 須田努『「悪党」の一九世紀』青木書店 2002年。
- 3 世直しについては、佐々木潤之介『世直し』岩波新書 1979年の先駆的な研究がある。
- 4 須田努『幕末の世直し 万人の戦争状態』吉川弘文館 2010年 191頁。
- 5 内憂外患に関しては、『歴史地理教育』第929号 2021年9月で、「幕府はどうする？内憂外患」が特集されている。
- 6 中学での世直し一揆に関する実践として、若杉温「米屋を襲う人々」(『授業ブックレット』No.4 学び舎 2019年)、同「武州世直し一揆の授業プランを考える」(『授業ブックレット』No.9 学び舎 2021年)などがある。
- 7 須田努 中嶋久人 趙景達『暴力の地平を超えて』青木書店 2004年では、歴史における暴力の実相を浮き彫りにし、暴力をふるう人びとの心性の解析を試みている。
- 8 藤野裕子『民衆暴力』中公新書 2020年 v頁。
- 9 関東大震災時の朝鮮人虐殺に関する教育実践としては、山田耕太「大正デモクラシーと世界」『中等社会科100テーマ』三恵社 2019年や伊藤和彦「世界の変化と日本が抱えた課題」『世界と日本をむすぶ「歴史総合」の授業』大月書店 2020年などがある。
- 10 前掲『民衆暴力』173頁。
- 11 金富子「関東大震災時の「レイピスト神話」と朝鮮人虐殺」『大原社会問題研究所雑誌』669号 2014年7月。
- 12 『日本国語大辞典』第2版 小学館 2003年の「不逞」の項目。
- 13 公益財団法人日本修学旅行協会 (<https://jstb.or.jp/publics/index/48>) の調査による。
- 14 加藤徹「教科書のなかの沖縄近現代史(明治期)」『人民の歴史学』第184号 2010年6月 18頁。
- 15 前掲「教科書のなかの沖縄近現代史(明治期)」19頁。
- 16 大谷正『日清戦争』中公新書 2014年 205～207頁。
- 17 「平成30年度(2018)石川県高等学校野球大会 遵守事項」(<http://ishikawa-hbf.jp/ishikawa-hbf/wp-content/uploads/2018/04/2018H30石川県大会遵守事項.pdf>) の5頁。
- 18 阿部恒久『ヒゲの日本近現代史』講談社現代新書 2013年 232頁。
- 19 1860年10月15日付「リンカン宛グレイス・ベデール書簡」(フレッド・トランプ『リンカンがひげをはやしたわけ』偕成社 1997年 43頁)。
- 20 1860年10月19日付「グレイス・ベデール宛リンカン書簡」(フレッド前掲『リンカンがひげをはやしたわけ』55頁)。
- 21 水村暁人「生徒と創る「歴史総合」」『思想』第1163号 2021年3月 120頁でも、「歴史」を「総合」するのは、高校二・三年生がふさわしいと指摘している。
- 22 趙景達「グローバル・ヒストリー雑感」『歴史評論』第741号 2012年1月 30～31頁。
- 23 近江吉明「世界史論の歩みからみた「グローバル・ヒストリー論」」『歴史評論』第741号 2012年1月 58～59頁。
なお、近江吉明「歴史学における世界史論の位置とその行方」『人民の歴史学』第200号 2014年6月でも触れられている。
- 24 「〈鼎談〉「世界史」をどう語るか」『思想』第1127号 2018年3月 9頁における小川幸司氏の発言。
- 25 須田努・清水克行『現代を生きる日本史』岩波書店 2014年 219頁。
- 26 木村礎『村落生活の史的研究』八木書店 1994年 3頁。
- 27 「タイムスクープハンター」シーズン1～6 NHK総合テレビ 2009～2014年。未来に存在する会社からタイムワープし派遣されたジャーナリストが、人間の営みをアーカイブしていく設定でドキュメンタリーテイストに描いたドラマである。
- 28 清水克行「社会史研究の成果と歴史ドラマの現在」『人民の歴史学』第195号 2013年3月 11頁。